

## 学校給食

### 豊かな感性を育む給食指導 ～学級担任と連携した給食指導の実践を通して～

#### 1 はじめに

「あれ！きんぴら ぜんぜん たべてないね。」「……」

「きれい なん？」「……」

「一口たべて 味をたしかめてごらん。」「……」

子どもは、だまって私ときんぴらを交互に見つめている。

「食べたこと ないん？」「うん」と少しあごをひいて答えてくれました。

入学間もない子どもたちの、ほんの一例である。現在の子どもたちは食べたい時に食べたい物を食べただけ食べられる環境にあり、偏食や過食による成人病の低年齢化が進み子どもの健康が危惧されている。生涯を通じて健康な生活を送るには、幼い時からある年齢まで、どのような食体験をしてきたかという、この食歴が成人になってからの健康に大きくかかわってくる。

学校給食は身体のみ健康だけでなく、毎日の実践活動を通して心とからだを育てることがねらいである。給食指導を単なる食事指導とみないで、人間性豊かな子どもたちを育てる教育そのものであると考える。

このような考えにたち、給食ではめざす子ども像を次のように設定した。

仲よく楽しく食事をする子  
食べものに関心をもつ子  
食べものを大切にする子  
がんばって何でも食べれる子  
思いやりの心をもつ子  
感謝の心をもつ子

豊かな心と健康なからだ  
生涯にわたって主体的な  
健康管理と人間性豊かな  
ふれあいを深める

#### 2 給食指導の重点

入学間もない子どもたちにとって、給食時間は食べたことのない料理への戸惑いや、嫌いなものに対する拒否感が見られる。そこで、次のような手だてを持って実践を展開するならば、子どもたちは食べものに関心を持ち、進んで何でも食べるようになるのではないかと考える。

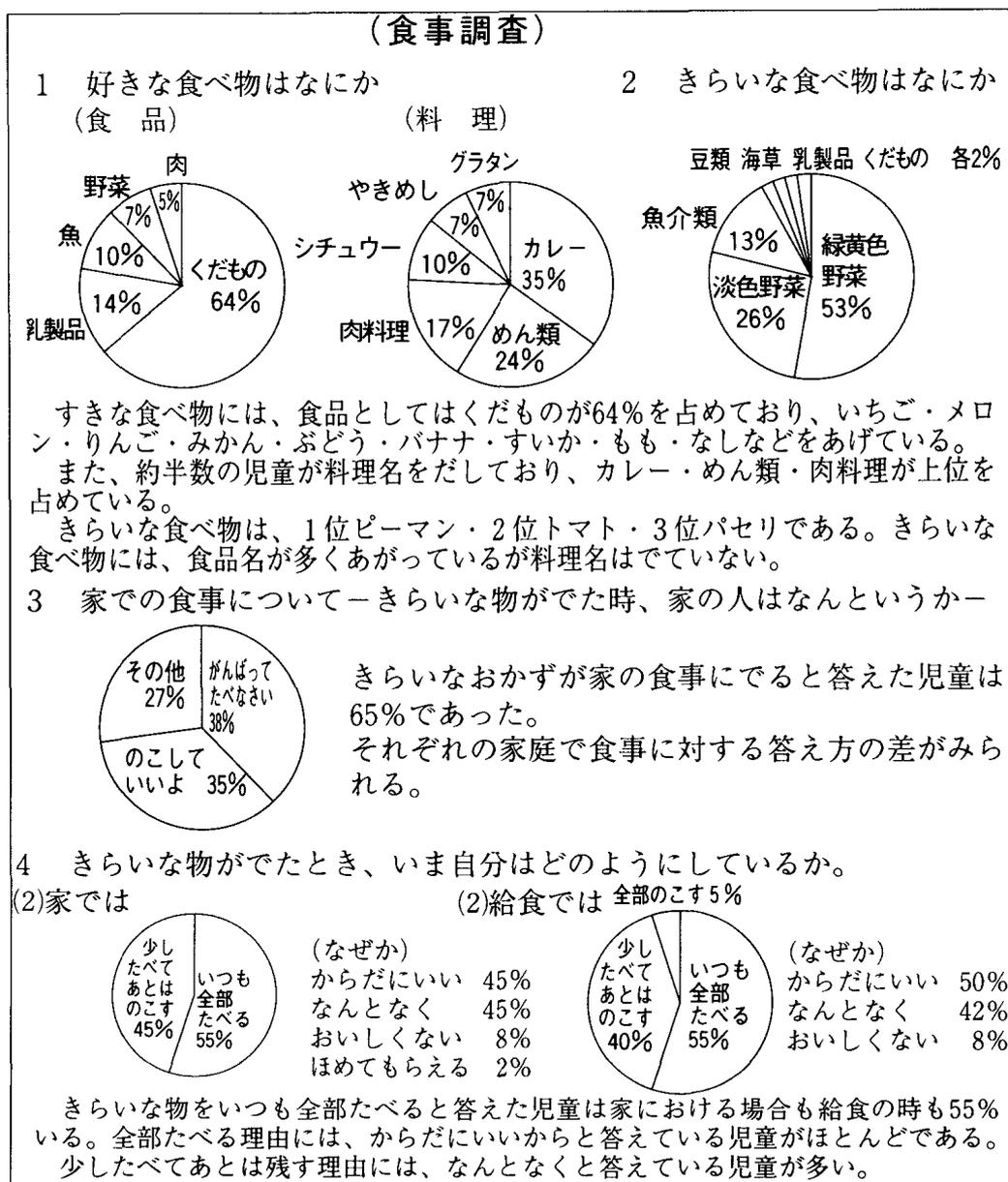
① 給食時間に学級訪問をして、食べものへの興味・関心を高めるよう

にする。

- ② 献立を工夫することによって子どもの心に感動を与える。
- ③ 子どもたち一人一人の状態をよく理解している学級担任と連携して指導する。

### 3 1年生の食生活の実態

1年生児童40名（男子20名・女子20名）の実態は、次に示すとおりである。



### 4 実践事例

#### (1) 給食時間の学級訪問

食べものへの興味・関心を持たせるために、5月に3日間の計画で給食時間に学級訪問をし、5分～10分程度の話をした。第1日目は、1人分の給食

が入っているサンプルケースを見せて「これは、何だと思う」「これを見て何がわかるかな」という問いかけをすることによって、献立・盛りつけ方・食器の置き方・つぐ量に気づいたようであった。子どもたちから「このサンプルケースはどこにあるのか」「何時ごろでてくるのか」という質問や、置いてあるところまで見に行くという行動もあらわれた。

第2日目は、いろいろな食べものから料理が作られていることに気づかせるようにするために、食べものの絵カードを使って給食の献立の中から食べもののさがしをした。この活動から、子どもたちは食べものや料理に興味をもったようであった。

第3日目は、大きな口とお母さんと赤ちゃんの絵を使って、お母さんのお腹から生まれて今までにいろいろな味を味わってきたことを話し合い、これからもいろいろな味を味わおうねと子どもたちと確認しあった。

## (2) 献立の工夫

入学して初めて経験する学校給食に子どもたちが早く慣れて、楽しみにしてくれることを願って、うさぎりんごとおむすびを献立に入れることにした。子どもたちの心のつながりも大切にしたいと考え、当日は給食室の先生方の似顔絵入の手紙もだすことにした。担任の先生から、子どもたちがとても喜んでいたり、おかずをがんばって食べていた様子を聞くことができた。

## (3) 学級担任など連携した給食指導 「きゅうしょくしつのせんせい」

入学間もない1年生に対して、食べものの栄養的な知識を与えることで好き嫌いの見方を変えようというのではなくて、給食室の先生方の願いや思いに目を向けさせて、それを知ることによって嫌いなものもすすんで食べようとする気持ちを持たせたいという学級担任の考えに基づき、学級担任と連携して次のような指導をした。

### ○ 単元計画

第1次 給食室の先生に聞いてみたいことを考える。

第2次 給食室の先生の願いを知り、嫌いなものも進んで食べようとする気持ちを持つ。(本時)

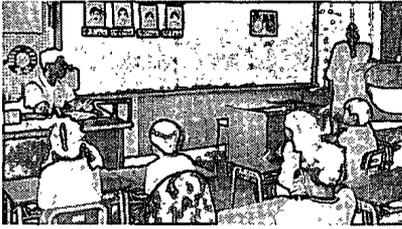
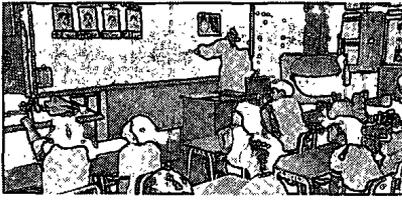
### ○ 本時の目標

嫌いなものも進んで食べようとする気持ちを持つことができる。

### ○ 準備

調理器具、残量の多い献立の写真、VTR、紙芝居

○ 指導過程

学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 活 動	児 童 の 反 応
<p>1 給食室の先生に聞きたいことを質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食室の先生は何人ぐらいいるのですか。</li> <li>・何時から給食をつくられているのですか。</li> <li>・食べ残したものはどうするのですか。</li> <li>・あれだけいっぱい料理を、どうやってつくるのですか。</li> </ul> <p>2 自分が好きな食べ物や嫌いな食べ物を発表する。</p>	<p>1 児童が驚きを持ち、給食を身近に感じることができるようになるために、可能な限り実物や視覚に訴える資料を提示する。</p> <p>2 友達の発表を聞き合うことにより、人によって食べ物の好みが違うことに気づかせる。</p>	 <p>「さわらせて！さわらせて！」 「大きいね。また後で見ようね。」</p>
<p>3 献立の中には残量の多いものがあることを知る。</p> 	<p>3 次の手だてを講じ、実感を持って理解することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な傾向として残量の多い献立を提示する。</li> <li>・残量の多い献立について学級担任と栄養士の会話の様子を見せる。</li> </ul>	 <p>「みんながたくさん残すものを、また出すのですか？」</p>
<p>4 給食室の先生の願いを知る。</p> 	<p>4 残量の多い献立料理をつくっている給食調理員の仕事の様子をVTRで見せる。</p> <p>◎ 給食室の先生の願いは、自分にとってかかるの深いものであることに気づかせるために、次の発問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「給食室の先生はどんなことを思って給食をつくっておられるのかな？」</li> <li>・「どうしてそんなことを思ってつくっておられるのかな？」</li> </ul>	 <p>「あっ、やぎせんせいがつつてる。」 「のこったらかなしいねっていつてる。」</p>
 <p>5 これから給食で嫌いな献立が出た時にどうするかを考える。</p>	<p>給食室の先生は、次の2つの願いを持って給食をつくっていることを紙芝居を通して知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしく食べてほしいな</li> <li>・嫌いなものも食べられるようになってね。</li> </ul> <p>5 給食の時に実践しようと思うことを数名に発表させ、実践への意欲化を図る。</p>	 <p>紙芝居を見ながら給食室の先生たちの思いを感じとる。</p>

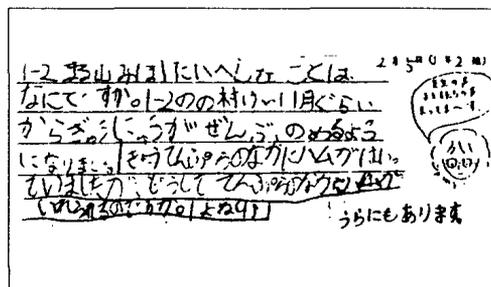
(4) 学級担任と連携した給食指導について以下のように考察する。

① 食べものへの興味・関心をもつことができたか

毎日だす給食室からの「きょうのおはなしなあに」の返信覧の子どもたちの声には給食に対する思いや質問がでてきた。やっど，ひらがなが書けるようになり，一生懸命書いてくれたのであろう。

- ・きょうのれいとうみかん おいしかったよ ・おさかな おいしかったよ
- ・きょうのれぎあとおいしかったよ ・きゃべつはどうして はっぱみたいなの
- ・きょうのぼんにしるをつけました。 ・きょうみtainどんぶりがでたら たにんどんふんぶりのごはんを，反対に入れています。どうすればいいですか
- ・きょうのふりかけなまえが「りしり」というなまえになっていましたが，どうしてこんななまえがつくのですか

二学期になると〇〇〇おいしかったよだけでなく，しだいに子どもたちから食べものに対する疑問などがでてくるようになり，食べものへの興味や関心をもっている様子を感じられた。



② 給食は自分たちのことを考えてつくられていることに気づくことができたか

指導後の調査結果1・2より，給食の中で残量の多い「みそに」の献立の料理を作っている給食室の先生方の作業のビデオを見せることによって，作業中での給食室の先生方のつぶやきから，きれいなものもがんばって食べてほしい・のこさず食べてほしい・おいしく食べてほしいという作り手の思いに気づいたようである。また，元気になってほしいから・大きくなってほしいからという子どもたちの健康を願っている作り手の気持ちにも気づいたようである。

③ 嫌いなものもすすんで食べようとする気持ちを持つことができたか

指導後の調査結果3で，嫌いなものがでたら全部残すが5%から2%に，少し食べて後は残すが40%から33%になり，なぜかという問いに対して，体のこと・作る人思いやりがでており意識の変容が見られた。

また，実践へとつなげていく手だてとして，9月の給食目標「すききらいをしないでなんでもたべよう」のがんばりカードへの記入も実施した。

自分を振り返り，がんばって食べようという意欲を持つことができたのではないかと思われる。

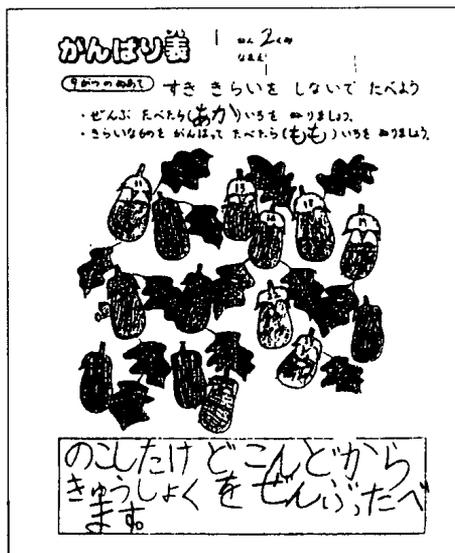
(指導後の調査結果)

1 給食室の先生はどんなことを思いながら給食をつくっていたか

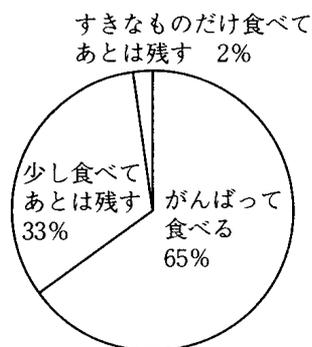
- ・きれいなものでもがんばって食べてほしい (7人)
- ・みんな食べてくれるかな (3人)
- ・みんなよく食べて元気になってほしい (3人)
- ・のこさず食べてほしい (13人)
- ・のこったらかなしいね (7人)
- ・のこったらあらうのたいへん (1人)
- ・おいしく食べてくれるかな (8人)
- ・おいしくつくろう (3人)

2 そう思うのはなぜか

- ・元気になるってほしいから (7人)
- ・大きくなってほしいから (1人)
- ・体にいい栄養があるから (2人)
- ・みんなが食べるかもしれないから (5人)
- ・おかわりをしてほしいから (1人)
- ・きれいなものを残すから (1人)
- ・おいしくつくっているから (2人)
- ・いっしょけんめいつくっているから (3人)



3 給食できれいなものがでたらどうするか



(理由)

- 体のこと (15人)
  - ・大きくなりたいから
  - ・体にいいから
  - ・つよくなれるから
  - ・健康になれるから
  - ・元気になるため
- 食べること (9人)
  - ・おいしいかもしれない
  - ・きれいなものもすきになるとうれしい
  - ・きれいなものをなくしたい
  - ・おとなになってこまらない
  - ・栄養があるから
- 作る人への思いやり (7人)
  - ・わざわざつくってくださったから
  - ・先生がかなしむから
  - ・いっしょけんめいつくってくださったのに残したらわるいから

5 おわりに

この実践を通して学級担任の給食に対する理解の深さを知ることができた。学級担任と連携して指導するためには、担任の意図にそった学習内容が提供できるように教材研究をしていきたい。

子どもたち一人一人のがんばる気持ちや、思いやりの気持ちが、日々の学校生活や家庭でいかされるように支援していくことが大切であると考えます。

また、この実践ですぐに子どもたちが何でも食べれるようになるわけではない。6年間の学校給食のどこかで“何でも食べれるようになったよ”という声が子どもたちからきけるように、日々努力していきたいと思う。

(松原 佳恵)